

チュートリアルセミナー

企画趣旨

日本心理学会第 67 回大会の特別企画として、その前日（9 月 12 日）にチュートリアルセミナーを開催いたします。大会は東京大学本郷キャンパスで開かれますが、チュートリアルは東京大学駒場キャンパスを会場とします。

進行中の研究の立場で、いくつかの論点を戦わせる大会のシンポジウムと違い、このチュートリアルは、基礎的なことから始めて、先端的な内容を学習する場です。以下に示す五つのトピックについて、先端的な研究をし、かつ、基礎的な部分を含めてその分野の全体的構造に的確な視点を持つ講師によるわかりやすい講義を聴くことができます。この講義を通じて、勉強してみたいと思っていた隣接する領域について理解を深めること、日ごろの疑問を解く機会とすることなど、いろいろな目的を達するよい機会になると思います。

チュートリアルは事前登録制といたします。講師の意向や会場の都合により、参加可能な人数には限りがございますので、参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。申し込みの方法は下記のとおりです。

記

1. 期 日

平成 15 年 9 月 12 日（金） 午後 1 時より

2. 場 所

東京大学教養学部（駒場） 13 号館

3. 参加資格

日本心理学会第 67 回大会参加をお申し込みの方

4. 参加登録の方法

お名前・ご住所・ご所属を明記のうえ、五つのチュートリアルのうち一つを選び、E-mail にて jpatutor@bayes.c.u-tokyo.ac.jp 宛にお送りください。

E-mail がご使用になれない場合は郵便でも受け付けいたします。以下の宛先にお送りください。

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3 - 8 - 1

東京大学教養学部 認知行動科学研究室 JPA2003 チュートリアル係

5. 登録の締め切り

平成 15 年 8 月 31 日（日）

6. 企画内容

A. 国際大会におけるプレゼンテーションのスキル

講師 David Matsumoto (San Francisco State University)

昨年度開催された「英語論文書き方三日間コース」の姉妹編というべきもので、国際学会における効果的なプレゼンテーションのための心構えやスキルについて学びます。「英語論文書き方三日間コース」と同じように、講師の人間性を楽しみながら、プレゼンテーションについて、多くの重要なことを学ぶはずで、昨年コースの様子、日本心理学会のHPの事務局からのお知らせで見ることができます。もちろん、昨年のコースに出席していなくても、このチュートリアルに参加できます（日本心理学会国際委員会企画）。

B. 機械学習技術の最近の展開

- ニューラルネットワークを超えて -

講師 麻生 英樹（産業技術総合研究所）

複雑で変化に富んだ実世界で生存するために、経験から学習する能力は大変重要です。センサデータからテキストデータにいたるまで、大量のデータが電子化されて蓄積されはじめた現在、情報処理システムにとっても、データから学習する能力がますます重要になっています。このチュートリアルでは、情報処理システムに学習させるためのアーキテクチャやアルゴリズムを研究する機械学習という分野の発展を展望するとともに、独立成分分析、サポートベクトルマシン、ブースティングといった最近の技術についても、その基本的なアイデアを平易に解説したいと思います。

C. 心理学者のための哲学再入門

（このセッションは休憩をはさんで二人の講師の講演です。）

C-1. 知覚の非概念的 content

講師 信原 幸弘（東京大学）

トマトが赤く見えるという知覚は、トマトが赤いという思考と同じ内容をもつように見えるが、思考の内容が概念的であるのに対して、知覚の内容は非概念的であり、両者は根本的に性格が異なると言われることがある。もしそうだとすれば、知覚の内容は厳密にい

ってどのような意味で非概念的なのであろうか。また、知覚の内容が思考の内容と異なる
とすると、知覚はいかにして思考の根拠となりうるのであろうか。これは言い換えれば、
我々の信念体系がいかにして経験的基盤をもちうるかという重大な問題である。知覚の内
容は(1)概念的には把握できないような詳細さを備えている、(2)状況依存的である、
という二つの意味で非概念的である。このような知覚からいかにして概念的な思考が導き
出されるのであろうか。知覚から思考が生成される過程を考察することで、知覚がいかに
して思考の根拠となりうるかを探究する。

C-2. 行為の哲学

講師 門脇 俊介 (東京大学)

人間に起こった出来事を「行為」と呼ぶことができるのはどのような場合なのだろうか。
たとえば、人間の自動的な体温調節機能も、暖房器具のスイッチを入れる動作も、どちら
も人間の身体の変化である。しかし、「行為」と呼ばれるのはスイッチを入れる動作の方だ
けだ。心の中の「意志」の有無に訴えて、この違いを説明する古典的な理論に代わって、
どのような行為の理論が現代では提出されているだろうか。そして、このような理論のは
らむ問題とは。現代の英語圏の分析哲学の議論をふまえた話になると思いますが、ハイデ
ガーのような現象学から見た、行為論の展開をも考慮に入れたいと思います。

D. 心理学者のための進化生物学入門

講師 長谷川 真理子 (早稲田大学)

近年、心理学をはじめとした人文社会科学の諸分野で、進化的存在としてのヒトという
視点を強調する進化的アプローチが用いられるようになってきた。しかし、「そもそも進化
とは何か」、「進化はどのようなメカニズムで起きるか」といった進化に関する基礎教育は、
日本の中高等教育では十分になされていない。とくに我が国の心理学は、文科系の学問と
して位置づけられていることもあり、心理学者が生物進化について体系的に学ぶ機会がほ
とんどない。その結果、「進化は進歩である」「ヒトは進化の頂点に立つ」などの誤解も多
く見受けられる。そこで、本チュートリアルでは、進化生物学について、その基礎から人
間行動に応用するときの留意点までわかりやすく解説する。

E. 心理学における SEM の効果的な使い方

講師 狩野 裕 (大阪大学)

構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling, SEM)は共分散構造分析とも呼ばれ、近年、心理学の計量的研究において必要不可欠な分析手法となった。しかし、統計学や一般的な多変量解析と比して、SEM のコースワークはほとんど提供されていない。講師は、ここ 5 年間、大学院において SEM の講義(2 単位)を開講しており、本チュートリアルでは、その講義内容のエッセンスを紹介したい。

チュートリアルでは、まず、基礎的な内容として、基本モデル、平均構造モデル、そして多母集団の同時分析を簡単に復習する。つづいて、SEM を適用するにあたっての実際的な話題として、不適解の問題、尺度得点の分析と SEM との違い、属性変数の扱いなどを取り上げ解説する。最後に、より実践的な話題である「投稿論文に対する査読者の要求にどのように対処するか」ということに焦点を当て、SEM のより深い理解を目指す。

以上